

**【表紙】**

**【提出書類】** 有価証券届出書の訂正届出書

**【提出先】** 関東財務局長殿

**【提出日】** 平成29年6月19日提出

**【発行者名】** 損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 山口 裕之

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋二丁目2番16号

**【事務連絡者氏名】** 須田 静

**【電話番号】** 03-5290-3469

**【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券に係るファンドの名称】** 損保ジャパン - T C W ・ M B S ファンド（毎月分配型）

**【届出の対象とした募集（売出）内国投資信託受益証券の金額】** 募集額 1,000億円を上限とします。

**【縦覧に供する場所】** 該当事項はありません。

**1【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】**

平成28年12月19日付をもって提出した有価証券届出書（以下「原届出書」といいます。）につきまして、有価証券報告書の提出に伴い、訂正すべき事項がありましたので、これを訂正するものであります。

**2【訂正の内容】**

原届出書の該当情報を以下の内容に訂正します。

下線部\_\_\_\_\_は訂正内容を示します。

## 第二部【ファンド情報】

### 第1【ファンドの状況】

#### 1【ファンドの性格】

##### （1）【ファンドの目的及び基本的性格】

##### <ファンドの特色>

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

## ● ファンドの目的

高格付の米国ドル建て住宅ローン債権担保証券(モーゲージ証券、MBS)を実質的な主要投資対象とし、信託財産の中長期的成長を目指して積極的な運用を行います。

## ● ファンドの特色

1

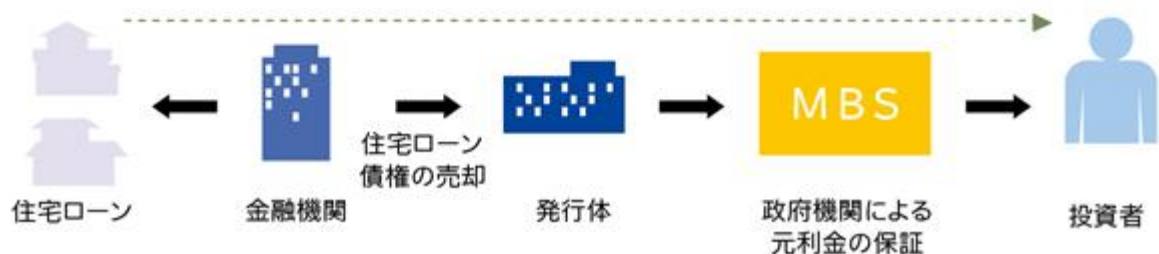
高格付の米国ドル建て住宅ローン債権担保証券(モーゲージ証券、MBS)を実質的な主要投資対象とします。

MBSは、主として住宅ローンを担保に発行された証券です。

<ご参考：MBSの基本的な仕組み(ジニーメイ発行の場合)>



投資者は住宅ローンの毎月の返済金(元利金)を受け取ることができます。  
住宅ローンの返済が滞った場合等は、政府機関が元利金の返済を保証します。

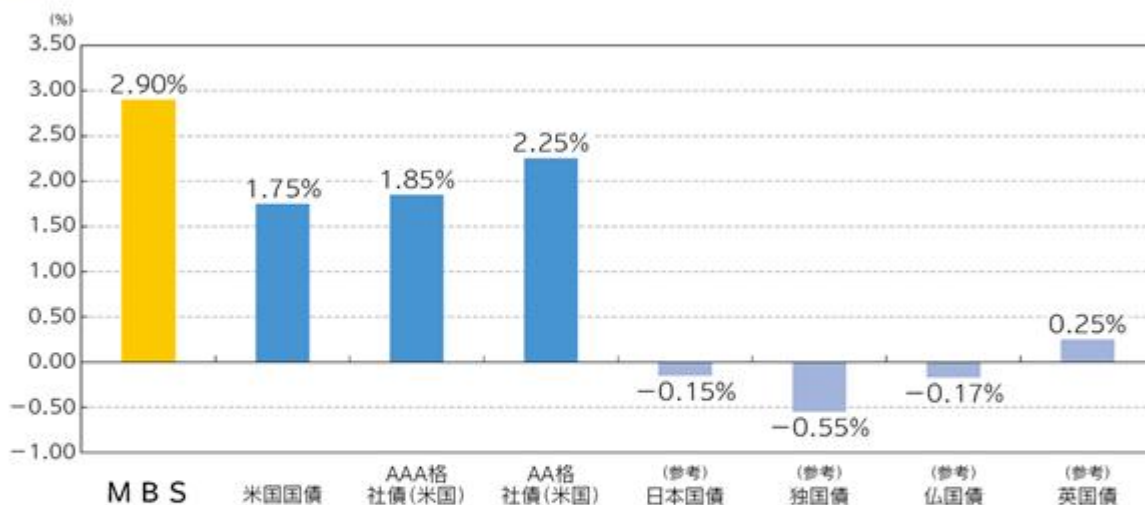


※上図はMBSの一般的な特徴を例示したものです。

## 利回り：MBSは、米国国債等と比較して高い利回りが魅力の投資対象です。

※ただし、MBSの裏づけとなる住宅ローンの期限前返済の動向等により、価格が大きく変動する可能性があります。

### ●米国債券市場の種類別（格付別）利回り（2017年3月末）

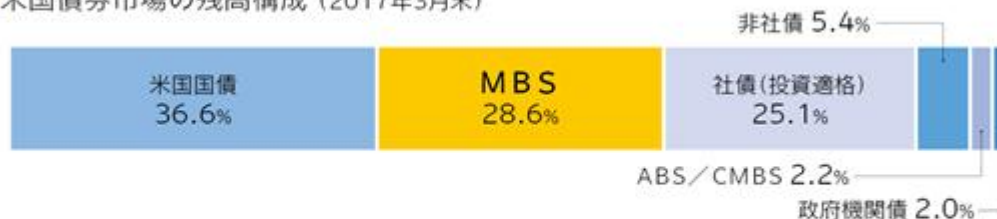


(出所：ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス、Citigroup Index LLC)

- MBSはブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスにおける利回りを使用しています。
- その他の債券は、加重平均残存年数(金利感応度、デュレーション)がブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスに近いと考えられる債券指数を用いています。
- AAA格社債・AA格社債は、ブルームバーグ・バークレイズ米国クレジットインデックスにおける短中期債の利回りを
- 使用しています。
- 米国国債・日本国債・独国債・仏国債・英国債はシティ世界国債インデックスにおける年限3-5年ゾーンの利回りを使用しています。
- グラフ・データは、過去の実績を示したものであり、将来の結果を保証するものではありません。

## 発行残高：MBSは発行残高ベースで大きな市場を形成しています。

### ●米国債券市場の残高構成（2017年3月末）



(出所：ブルームバーグ・バークレイズ・インデックス)

- 端数処理の関係上、合計が100%とならない場合があります。
- ABSとは、自動車ローンやクレジット債権などを裏付け(原資産)に発行された資産担保証券です。
- CMBSとは、商業用不動産ローンを裏付け(原資産)に発行されたコマーシャル・モーゲージ・バック証券です。
- 非社債とは、国際金融機関などが発行する債券です。
- グラフ・データは、過去の実績を示したものであり、将来の結果を保証するものではありません。

## 2

実質的な投資対象証券は、米国政府または米国政府系機関保証のもの、またはAA格相当以上の長期格付が付与されている民間発行のものに限ります。また、ポートフォリオの平均格付は高位に維持することを目指し、信用リスクの低減に努めます。

3

マザーファンド<sup>※1</sup>の米国ドルベースの運用は、ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックス<sup>※2</sup>を上回る収益率の獲得およびリスクの分散を図ることを目指します。なおマザーファンドの米国ドル建てMBS運用にかかる権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANY(以下「TCW」といいます。)に委託します。

※1 マザーファンドについては、後掲「ファンドの仕組み」をご参照下さい。

※2 ブルームバーグ・バークレイズ米国MBSインデックスは、ブルームバーグが公表しているインデックスであり、エージェンシー発行のMBS市場のパフォーマンスをあらわします。ブルームバーグは、ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーの商標およびサービスマークです。バークレイズは、ライセ

ンスに基づき使用されているバークレイズ・バンク・ビーエルシーの商標およびサービスマークです。ブルームバーグ・ファイナンス・エル・ピーおよびその関係会社(以下「ブルームバーグ」と総称します。)またはブルームバーグのライセンサーは、ブルームバーグ・バークレイズ・インデックスに対する一切の独占的権利を有しています。

#### TCWについて

1971年設立。ロサンゼルスを拠点とするTCWグループ傘下の運用会社です。  
2016年12月末現在の同グループの運用資産は、約1,914億米ドル(約22兆3,020億円\*)です。  
また、TCWグループはMBS運用で20年以上の実績があり、  
約193億米ドル(約2兆2,531億円\*)のMBSポートフォリオを運用しております。

※2016年12月末時点の為替レートで換算。

4

実質米国ドル建て資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

5

組入れ債券の利息等収益を中心に、原則として毎月分配を行います。

- 原則、毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行い、原則として、利子、配当収入等を中心に安定分配を行います。
- 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。
- ただし、基準価額水準、市場動向等によっては分配を行わないことがあります。

決算期毎にインカム収入<sup>※</sup>を中心に分配を行うことを目指すファンドです。

※ インカム収入とは、債券の利子収入等をいいます。

- ・ ファンドに蓄積された過去の運用成果(分配原資)を加味する場合があります。
- ・ 投資対象資産や為替の値動き等により基準価額が下落した場合でも、原則として、インカム収入相当については、分配を行います。

## <格付とは>

- ・債券などの元本および利息の支払いが償還まで当初契約どおり行われるかの確実性を評価したものです。
- ・投資する債券が債務不履行を起こす可能性があるかどうかを推測する上で重要な判断材料となります。
- ・一般的に格付はAAA、AAなどの英文字の記号で表記されます。格付機関によって定義が同一とは限りません。一般的にはAAAが最も債務不履行の可能性が低いことを表しています。

## <平均格付について>

- ・各銘柄の格付をポイント化し、時価総額により加重平均したものを、マザーファンドの「平均格付」とします。
- ・平均格付は、委託会社およびTCW独自の考え方によるものであり、一般的な格付とは異なる場合があります。
- ・複数の異なる格付を取得している場合には、高い格付を採用します。
- ・ただし、投資対象証券の信用状況の変化等があった場合等は、基準を見直すことがあります。

※平均格付は、当ファンドが保有している有価証券に係る信用格付を加重平均したものであり、当ファンドに係る信用格付ではありません。

## 追加的記載事項

- ・MBSは、主として住宅ローンを担保に発行された証券であり、米国国債等と比較して高い利回りが魅力の投資対象です。
- ・MBSには、政府抵当金庫(GNMA: Government National Mortgage Association)、連邦住宅抵当公庫(FNMA: Federal National Mortgage Association)、連邦住宅金融抵当公社(FHLMC: Federal Home Loan Mortgage Corporation) という政府機関または政府系機関(これらを総称してエージェンシーといいます。)の発行または支払保証が付されたものや、優先劣後構造や保険などの信用補強によりAA以上の格付けを取得している民間発行のものなどがあります。
- ・ただし、民間機関のMBSは、政府機関または政府系機関による元本及び金利の支払い保証が付帯されておりません。なお、MBSは多数の住宅ローンを担保として発行されますので、担保となる住宅ローンの中にはいわゆるサブプライムローン(信用力の低い個人向け住宅融資)と考えられる信用力の低いものも一部含まれています。
- ・米国国債や、米国政府系機関の発行した債券などにも投資することがあります。商業用不動産ローンを裏付け(原資産)に発行されたコマーシャル・モーゲージ・バック証券(CMBS: Commercial Mortgage Backed Securities)や、その他の債権(自動車ローンやクレジット債権など)を裏付け(原資産)に発行された資産担保証券(ABS: Asset Backed Securities)などの、米国ドル建て証券に投資することもあります。

## 収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

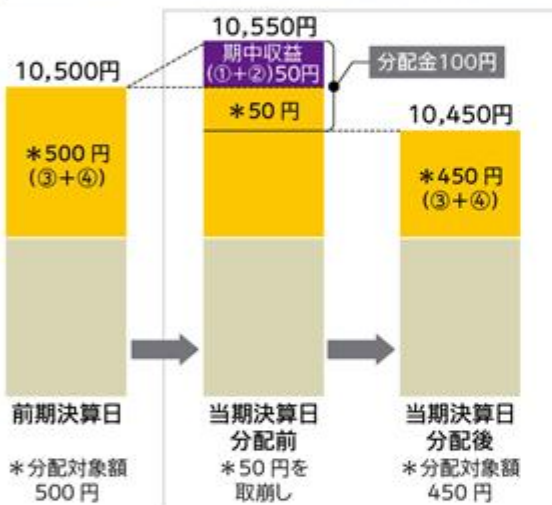
投資信託の純資産 → 分配金

- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

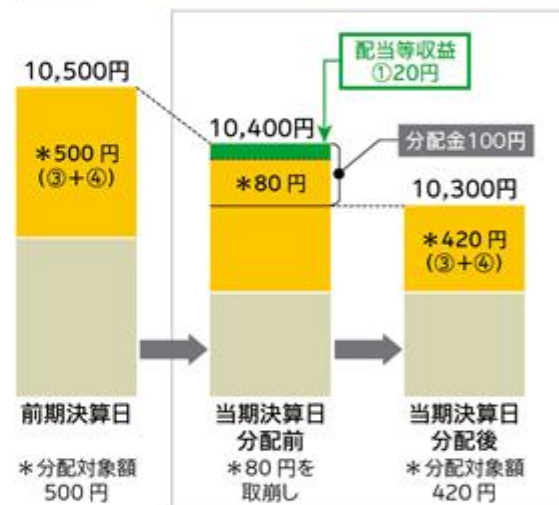
また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



(注) 分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

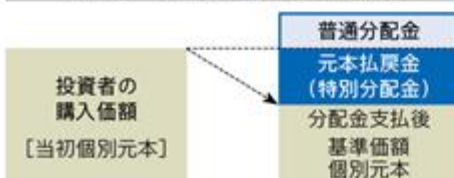
分配対象額は、以下①～④です。

①経費控除後の配当等収益、②経費控除後の評価益を含む売買益、③分配準備積立金、④収益調整金

※上記はイメージです。実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご留意下さい。

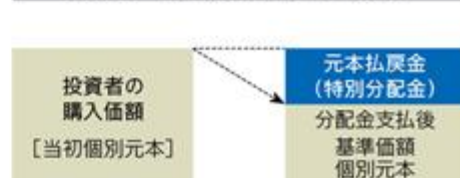
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金（特別分配金）は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金（特別分配金）部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



**普通分配金** 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

**元本払戻金 (特別分配金)** 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

### （３）【ファンドの仕組み】

<訂正前>

（略）

委託会社等の概況

（ ）資本金の額 1,550百万円(平成28年9月末現在)

（略）

（ ）大株主の状況（平成28年10月1日現在）

（略）

<訂正後>

（略）

委託会社等の概況

（ ）資本金の額 1,550百万円(平成29年3月末現在)

（略）

（ ）大株主の状況（平成29年3月末現在）

（略）

## 2【投資方針】

### （３）【運用体制】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

a. 委託会社の運用体制と社内規程

（運用体制）

総合投資会議は、ファンドの基本運用方針の分析と決定を行います。

各資産投資戦略会議は、総合投資会議の基本運用方針に基づき、ファンドの運用戦略を決定し、各運用担当部が運用計画を策定します。

各運用担当部で策定された運用計画に基づき、運用管理部トレーディング室が最良執行の観点から売買を執行します。

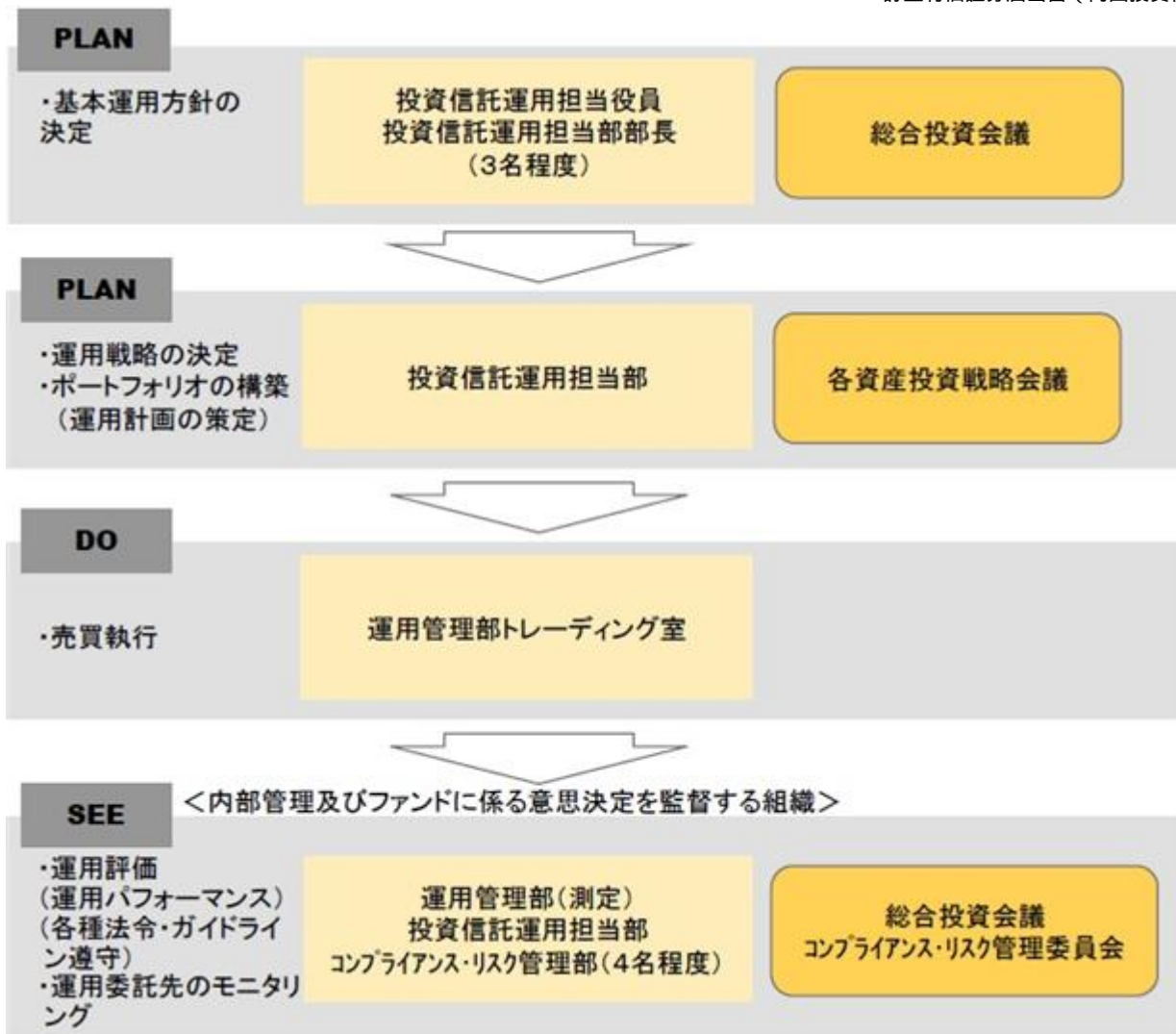
運用状況の分析・評価等は運用担当部で行い、総合投資会議に報告されます。また、売買チェック、リスク管理、各種法令、ガイドライン遵守の状況は、コンプライアンス・リスク管理部で確認を行い、コンプライアンス・リスク管理委員会に報告されます。

（社内規程）

社内規程で当ファンドの「業務マニュアル」を定めている他、有価証券売買の発注先に関する各種規程や「有価証券の自己取引制限に関する規程」、「行動規程」、「コンプライアンス・マニュアル」等の服務規程を定め、法令遵守の徹底、インサイダー取引の防止に努めています。

また、外部委託先の管理体制については、当社が当社以外の者に業務を委託するときの基本事項等を定めた「外部委託管理規程」に従い、定期モニタリング等を実施しています。





平成29年4月1日現在のものであり、今後変更されることもあります。

#### b. 運用委託先の運用体制等

マザーファンドの運用委託先であるTCWでは、以下のような運用体制によりMBS運用を行っております。

委託会社とTCWの間では、マザーファンドのMBS運用にかかる投資一任契約が締結されており、当マザーファンドの運用の基本方針や投資制限が、信託約款と同様に遵守しなければならない内容として「運用ガイドライン」の中に定められております。

#### < TCWにおけるMBSの運用体制 >



(注) 平成29年2月末現在のものであり、今後変更されることもあります。

### 3 【投資リスク】

< 訂正前 >

(略)

## < リスクの管理体制 >

### a. 委託会社のリスク管理体制

(略)

(注) 上図は、平成28年9月末現在のものであり、今後変更されることもあります。

(略)



- 上記は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額および年間騰落率が記載されており、実際の基準価額および基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。
- 上記は、期間5年のグラフになります。
- 「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

#### \*各資産クラスの指数

日本株…東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株…MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株…MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

日本国債…NOMURA-BPI 国債

先進国債…シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債…JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド(円ベース)

- ・ 東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数(TOPIX)は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- ・ MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界主要国の株債指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株債指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc.が開発した株債指数で、世界の新興国で構成されています。MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、米ドルベース)をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
- ・ シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。また、Citigroup Index LLCは同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
- ・ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイドは、J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

&lt;訂正後&gt;

(略)

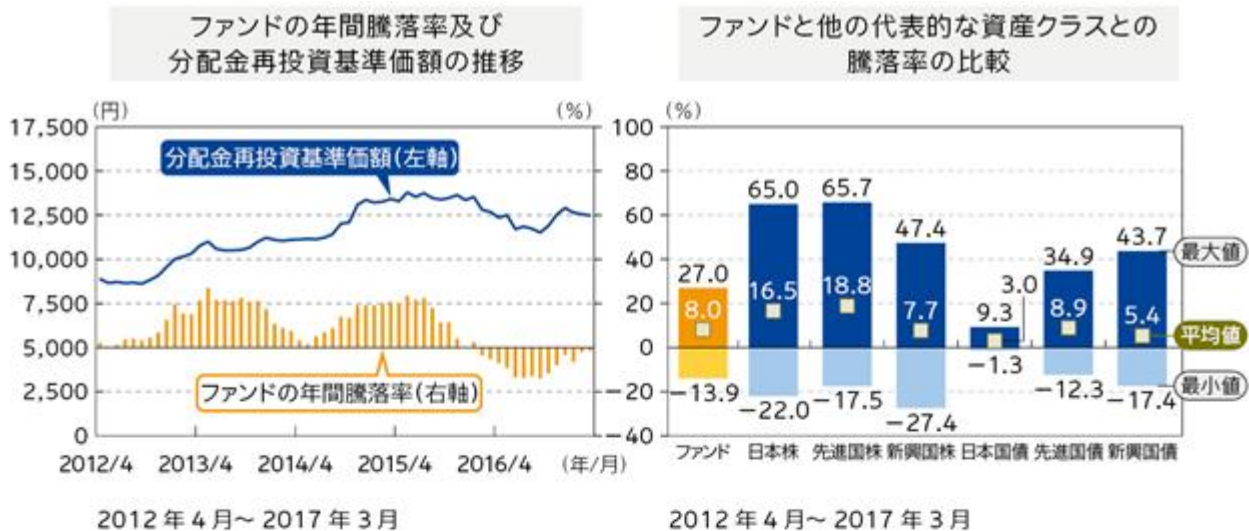
&lt;リスクの管理体制&gt;

a. 委託会社のリスク管理体制

(略)

(注) 上図は、平成29年3月末現在のものであり、今後変更されることもあります。

(略)



● 上記は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した基準価額および年間騰落率が記載されており、実際の基準価額および基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

● 上記は、期間5年のグラフになります。

● 「ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較」は、上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、ファンド及び他の代表的な資産クラスについて表示し、ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

## 代表的な資産クラスの指数

日本株	東証株価指数(TOPIX) (配当込み)	東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数(TOPIX)は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円ベース)	MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)	MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、米ドルベース)をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
日本国債	NOMURA-BPI 国債	野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。
先進国債	シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)	Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。また、Citigroup Index LLCは同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。
新興国債	J.P.モルガンGBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ベース)	J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

#### 4【手数料等及び税金】

##### （５）【課税上の取扱い】

<訂正前>

（略）

上記は平成28年9月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

<訂正後>

（略）

上記は平成29年3月末現在のものですので、税法が改正された場合等には、税率等が変更される場合があります。税金の取扱いの詳細については、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

## 5【運用状況】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

## (1)【投資状況】

平成29年3月31日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
親投資信託受益証券	255,801,873	99.18
内 日本	255,801,873	99.18
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	2,102,454	0.82
純資産総額	257,904,327	100.00

（参考）マザーファンドの投資状況

損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド

平成29年3月31日現在

資産の種類	時価合計（円）	投資比率（％）
国債証券	86,769,012	9.91
内 アメリカ	86,769,012	9.91
特殊債券	762,233,133	87.04
内 アメリカ	762,233,133	87.04
コール・ローン、その他の資産（負債控除後）	26,773,654	3.06
純資産総額	875,775,799	100.00

（注1）投資比率は、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価の比率です。

（注2）投資資産の内書きの時価および投資比率は、原則として、当該資産の地域別又は発行国籍別の内訳です。

## (2) 【投資資産】

## 【投資有価証券の主要銘柄】

平成29年3月31日現在

順位	銘柄名 地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率 (%) 償還日	投資 比率
1	損保ジャパン - TCW・MBSマ ザーファンド 日本	親投資信託 受益証券	118,487,134	2.1584 255,754,478	2.1589 255,801,873	- -	99.18%

(注1) 評価額組入上位30銘柄について記載しています。

(注2) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の時価の比率です。

## 投資有価証券の種類別投資比率

平成29年3月31日現在

種類	投資比率
親投資信託受益証券	99.18%
合計	99.18%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の時価の比率です。

## 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

## （参考）マザーファンドの投資資産

## 損保ジャパン - TCW・MBSマザーファンド

平成29年3月31日現在

順位	銘柄名 地域	種類	数量	簿価単価 簿価金額 (円)	評価単価 評価金額 (円)	利率(%) 償還日	投資 比率
1	FNCL 4.5 4/17 2047/04/25 アメリカ	特殊債券	79,093,950	106.83 84,502,735	107.07 84,689,056	4.500000 2047/4/25	9.67%
2	US TREASURY N/B 1.25% 2019/03/31 アメリカ	国債証券	68,435,900	99.95 68,404,521	99.92 68,381,835	1.250000 2019/3/31	7.81%
3	FNCL 4 4/17 2047/04/25 アメリカ	特殊債券	31,413,200	104.33 32,774,556	104.72 32,897,787	4.000000 2047/4/25	3.76%
4	G2 MA3736 2046/06/20 アメリカ	特殊債券	25,480,996	106.10 27,037,374	103.56 26,390,666	3.500000 2046/6/20	3.01%
5	FN AH1183 2026/01/01 アメリカ	特殊債券	23,596,369	106.20 25,061,467	104.33 24,618,564	3.500000 2026/1/1	2.81%
6	G2SF 4 4/17 2047/04/20 アメリカ	特殊債券	20,755,150	104.95 21,783,091	105.42 21,880,286	4.000000 2047/4/20	2.50%
7	FNCL 3 4/17 2032/04/25 アメリカ	特殊債券	20,194,200	101.71 20,541,136	102.37 20,674,418	3.000000 2032/4/25	2.36%
8	FG G08715 2046/07/01 アメリカ	特殊債券	19,981,656	102.95 20,573,111	98.96 19,775,444	3.000000 2046/7/1	2.26%
9	FG G08716 2046/08/01 アメリカ	特殊債券	18,040,866	105.05 18,952,651	102.17 18,433,977	3.500000 2046/8/1	2.10%
10	G2 MA4068 2046/11/20 アメリカ	特殊債券	17,749,066	99.65 17,687,831	100.77 17,886,975	3.000000 2046/11/20	2.04%
11	FG G08687 2046/01/01 アメリカ	特殊債券	17,224,535	105.05 18,095,062	102.15 17,595,206	3.500000 2046/1/1	2.01%
12	FN MA2830 2031/12/01 アメリカ	特殊債券	17,474,851	100.06 17,486,733	99.96 17,469,258	2.500000 2031/12/1	1.99%
13	FN AL9472 2043/10/01 アメリカ	特殊債券	16,074,680	104.56 16,807,846	105.19 16,909,760	4.000000 2043/10/1	1.93%
14	FG G08722 2046/09/01 アメリカ	特殊債券	16,134,988	105.13 16,963,679	102.17 16,486,569	3.500000 2046/9/1	1.88%
15	FG A95668 2040/12/01 アメリカ	特殊債券	14,179,946	109.07 15,467,484	105.80 15,002,383	4.000000 2040/12/1	1.71%
16	FG G08711 2046/06/01 アメリカ	特殊債券	14,518,231	105.05 15,251,982	102.17 14,834,584	3.500000 2046/6/1	1.69%
17	FG G08681 2045/12/01 アメリカ	特殊債券	14,388,570	105.04 15,114,617	102.19 14,703,823	3.500000 2045/12/1	1.68%
18	G2SF 3 4/17 2047/04/20 アメリカ	特殊債券	14,584,700	99.17 14,464,884	100.67 14,682,563	3.000000 2047/4/20	1.68%
19	FN AD0849 2020/02/01 アメリカ	特殊債券	13,803,692	106.81 14,744,965	105.05 14,501,330	4.250000 2020/2/1	1.66%
20	FNCL 3 4/17 2047/04/25 アメリカ	特殊債券	14,023,750	98.39 13,798,493	98.96 13,878,463	3.000000 2047/4/25	1.58%
21	FG G08702 2046/04/01 アメリカ	特殊債券	12,940,223	105.05 13,594,221	102.15 13,218,695	3.500000 2046/4/1	1.51%
22	FN AS0214 2043/08/01 アメリカ	特殊債券	12,759,697	106.88 13,637,691	103.02 13,145,932	3.500000 2043/8/1	1.50%
23	FN AB8533 2043/03/01 アメリカ	特殊債券	11,784,651	103.42 12,188,629	99.53 11,729,852	3.000000 2043/3/1	1.34%
24	FN MA1561 2033/09/01 アメリカ	特殊債券	11,349,483	104.39 11,848,519	101.59 11,530,734	3.000000 2033/9/1	1.32%
25	FG G08677 2045/11/01 アメリカ	特殊債券	10,794,032	105.23 11,358,775	104.82 11,314,736	4.000000 2045/11/1	1.29%

26	FN AL9549 2046/09/01 アメリカ	特殊債券	10,099,664	105.26 10,631,209	104.86 10,590,811	4.000000 2046/9/1	1.21%
27	G2SF 3.5 4/17 2047/04/20 アメリカ	特殊債券	9,536,150	102.16 9,742,365	103.45 9,865,433	3.500000 2047/4/20	1.13%
28	FG G08721 2046/08/01 アメリカ	特殊債券	9,795,799	102.95 10,085,754	98.96 9,694,705	3.000000 2046/8/1	1.11%
29	SLMA 2007-6 A4 2024/10/25 アメリカ	特殊債券	9,692,981	99.68 9,662,691	99.62 9,656,922	1.417890 2024/10/25	1.10%
30	FN AD0761 2040/02/01 アメリカ	特殊債券	8,378,147	113.20 9,484,480	111.66 9,355,625	5.000000 2040/2/1	1.07%

(注1) 評価額組入上位30銘柄について記載しています。

(注2) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各銘柄の時価の比率です。

#### 投資有価証券の種類別投資比率

平成29年3月31日現在

種類	投資比率
国債証券	9.91%
特殊債券	87.04%
合計	96.94%

(注) 投資比率は、ファンドの純資産総額に対する各種類の時価の比率です。

#### 投資株式の業種別投資比率

該当事項はありません。

#### 【投資不動産物件】

該当事項はありません。

#### 【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。



## (3) 【運用実績】

## 【純資産の推移】

直近日（平成29年3月末）、同日前1年以内における各月末及び下記計算期間末における純資産の推移は次の通りです。

	純資産総額 (分配落) (円)	純資産総額 (分配付) (円)	1口当たりの 純資産額 (分配落)(円)	1口当たりの 純資産額 (分配付)(円)
第10特定期間末 (平成19年9月20日)	1,692,592,622	1,697,197,097	0.9190	0.9215
第11特定期間末 (平成20年3月21日)	1,379,458,601	1,383,757,396	0.8022	0.8047
第12特定期間末 (平成20年9月22日)	1,224,673,396	1,228,368,531	0.8286	0.8311
第13特定期間末 (平成21年3月23日)	981,501,949	984,873,335	0.7278	0.7303
第14特定期間末 (平成21年9月24日)	836,582,863	839,508,825	0.7148	0.7173
第15特定期間末 (平成22年3月23日)	700,226,584	702,697,547	0.7085	0.7110
第16特定期間末 (平成22年9月21日)	610,208,719	612,465,935	0.6758	0.6783
第17特定期間末 (平成23年3月22日)	519,788,441	521,865,291	0.6257	0.6282
第18特定期間末 (平成23年9月20日)	455,680,502	457,586,325	0.5977	0.6002
第19特定期間末 (平成24年3月21日)	436,284,692	438,004,287	0.6343	0.6368
第20特定期間末 (平成24年9月20日)	364,814,433	365,735,282	0.5943	0.5958
第21特定期間末 (平成25年3月21日)	387,265,434	388,082,924	0.7106	0.7121
第22特定期間末 (平成25年9月20日)	362,772,073	363,535,728	0.7126	0.7141
第23特定期間末 (平成26年3月20日)	334,130,948	334,820,416	0.7269	0.7284
第24特定期間末 (平成26年9月22日)	335,295,746	335,725,625	0.7800	0.7810
第25特定期間末 (平成27年3月20日)	363,947,972	364,364,338	0.8741	0.8751
第26特定期間末 (平成27年9月24日)	337,940,918	338,332,243	0.8636	0.8646
第27特定期間末 (平成28年3月22日)	299,729,266	300,101,588	0.8050	0.8060

第28特定期間末 (平成28年9月20日)	266,127,875	266,489,644	0.7356	0.7366
第29特定期間末 (平成29年3月21日)	257,956,762	258,284,513	0.7871	0.7881
平成28年3月末日	301,498,340	-	0.8122	-
4月末日	288,893,091	-	0.7904	-
5月末日	290,634,435	-	0.7985	-
6月末日	270,730,354	-	0.7462	-
7月末日	273,724,528	-	0.7555	-
8月末日	269,871,069	-	0.7460	-
9月末日	264,720,475	-	0.7317	-
10月末日	270,584,041	-	0.7549	-
11月末日	276,708,726	-	0.7945	-
12月末日	271,445,949	-	0.8168	-
平成29年1月末日	264,817,818	-	0.7987	-
2月末日	261,052,879	-	0.7924	-
3月末日	257,904,327	-	0.7869	-

## 【分配の推移】

	1口当たりの分配金(円)
第10特定期間	0.0150
第11特定期間	0.0150
第12特定期間	0.0150
第13特定期間	0.0150
第14特定期間	0.0150
第15特定期間	0.0150
第16特定期間	0.0150
第17特定期間	0.0150
第18特定期間	0.0150
第19特定期間	0.0150
第20特定期間	0.0110
第21特定期間	0.0090
第22特定期間	0.0090
第23特定期間	0.0090
第24特定期間	0.0060
第25特定期間	0.0060
第26特定期間	0.0060
第27特定期間	0.0060
第28特定期間	0.0060
第29特定期間	0.0060

## 【収益率の推移】

	収益率(%)
第10特定期間	0.0
第11特定期間	11.1
第12特定期間	5.2
第13特定期間	10.4
第14特定期間	0.3
第15特定期間	1.2
第16特定期間	2.5
第17特定期間	5.2
第18特定期間	2.1
第19特定期間	8.6
第20特定期間	4.6
第21特定期間	21.1
第22特定期間	1.5
第23特定期間	3.3
第24特定期間	8.1
第25特定期間	12.8
第26特定期間	0.5
第27特定期間	6.1
第28特定期間	7.9
第29特定期間	7.8

(注)各特定期間の収益率は、特定期間末の基準価額（分配落の額）に当該特定期間の分配金を加算し、当該特定期間の直前の特定期間末の基準価額（分配落の額。以下「前期末基準価額」といいます。）を控除した額を前期末基準価額で除して得た数に100を乗じた数です。

なお、小数点以下2桁目を四捨五入し、小数点以下1桁目まで表示しております。

## (4) 【設定及び解約の実績】

	設定口数	解約口数
第10特定期間	7,500,652	295,802,898
第11特定期間	4,305,886	126,577,751
第12特定期間	1,240,036	242,704,264
第13特定期間	478,455	129,978,025
第14特定期間	620,721	178,790,411
第15特定期間	604,082	182,603,557
第16特定期間	669,396	86,168,251
第17特定期間	890,559	73,037,028
第18特定期間	32,769,913	101,180,582
第19特定期間	7,930,399	82,421,678
第20特定期間	563,898	74,502,560
第21特定期間	787,319	69,693,044
第22特定期間	307,888	36,198,017
第23特定期間	322,107	49,780,067
第24特定期間	536,595	30,303,006
第25特定期間	11,928,581	25,441,033

第26特定期間	3,175,024	28,215,794
第27特定期間	1,241,863	20,245,293
第28特定期間	37,518	10,590,607
第29特定期間	116,843	34,134,944

(注1) 本邦外における設定及び解約はございません。

(注2) 設定口数には、当初募集期間中の設定口数を含みます。

## &lt; 参考情報 &gt;

基準日:2017年3月31日

## ● 基準価額・純資産の推移 2007/03/30～2017/03/31



- 基準価額(税引前分配金再投資)は、税引前の分配金を再投資したものと計算しています。
- 基準価額の計算において信託報酬は控除しています。

## ● 分配の推移

2016年11月	10円
2016年12月	10円
2017年01月	10円
2017年02月	10円
2017年03月	10円
直近1年間累計	120円
設定来累計	3,622円

- 1万口当たり、税引前

## ● 主要な資産の状況

## ● 損保ジャパン-TCW・MBSファンド(毎月分配型)

資産別構成	
資産の種類	純資産比
損保ジャパン-TCW・MBSマザーファンド	99.18%
コール・ローン等	0.82%
合計	100.00%

## ● 損保ジャパン-TCW・MBSマザーファンド

資産別構成	
資産の種類	純資産比
公社債	96.94%
コール・ローン等	3.06%
合計	100.00%

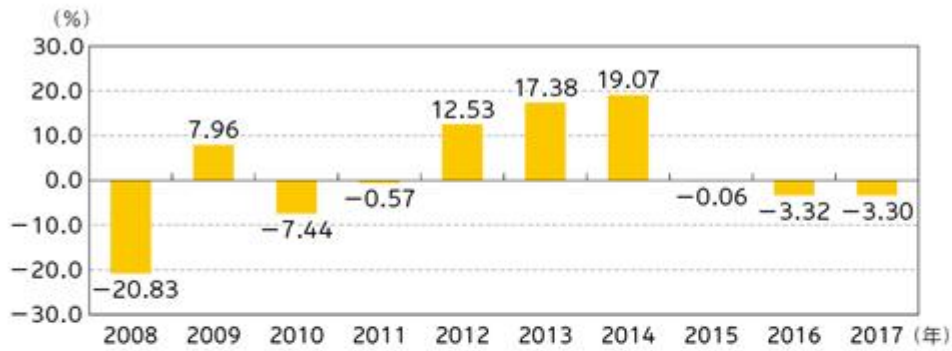
種類別構成	
種類	純資産比
特殊債券	87.0%
国債証券	9.9%
コール・ローン等	3.0%
合計	100.0%

## 組入上位10銘柄

	銘柄名	種類	償還日	純資産比
1	FNCL 4.5 4/17	特殊債券	2047/04/25	9.7%
2	US TREASURY N/B 1.25%	国債証券	2019/03/31	7.8%
3	FNCL 4 4/17	特殊債券	2047/04/25	3.8%
4	G2 MA3736	特殊債券	2046/06/20	3.0%
5	FN AH1183	特殊債券	2026/01/01	2.8%
6	G2SF 4 4/17	特殊債券	2047/04/20	2.5%
7	FNCI 3 4/17	特殊債券	2032/04/25	2.4%
8	FG G08715	特殊債券	2046/07/01	2.3%
9	FG G08716	特殊債券	2046/08/01	2.1%
10	G2 MA4068	特殊債券	2046/11/20	2.0%
組入銘柄数				77銘柄

- 上記の運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
- 最新の運用実績は別途、委託会社ホームページでご確認いただけます。
- 表中の各数値を四捨五入して表示している場合、合計が100%とならないことがあります。

## ● 年間収益率の推移（暦年ベース）



- ファンドの年間収益率は基準価額（税引前分配金再投資）を使用して計算しています。
- 2017年は年初から基準日までの収益率です。
- 当ファンドはベンチマークを設定していません。

- 上記の運用実績は、あくまで過去の実績であり、将来の運用成果をお約束するものではありません。
- 最新の運用実績は別途、委託会社ホームページでご確認いただけます。
- 表中の各数値を四捨五入して表示している場合、合計が100%とならないことがあります。

### 第3【ファンドの経理状況】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）（以下「財務諸表等規則」という。）ならびに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）（以下「投資信託財産計算規則」という。）に基づいて作成しております。  
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヶ月未満であるため、財務諸表は6ヶ月ごとに作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、平成28年9月21日から平成29年3月21日までの財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

## 1【財務諸表】

## 【損保ジャパン - TCW・MBSファンド（毎月分配型）】

## (1)【貸借対照表】

(単位：円)

	前 期 平成28年 9 月20日現在	当 期 平成29年 3 月21日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産		
コール・ローン	2,630,447	2,837,532
親投資信託受益証券	264,172,231	255,754,478
流動資産合計	266,802,678	258,592,010
資産合計	266,802,678	258,592,010
<b>負債の部</b>		
流動負債		
未払収益分配金	361,769	327,751
未払解約金	2	6
未払受託者報酬	13,732	13,490
未払委託者報酬	297,707	292,435
その他未払費用	1,593	1,566
流動負債合計	674,803	635,248
負債合計	674,803	635,248
<b>純資産の部</b>		
元本等		
元本	361,769,429	327,751,328
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	95,641,554	69,794,566
純資産合計	266,127,875	257,956,762
負債純資産合計	266,802,678	258,592,010



## （２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	前 期		当 期	
	自 平成28年 9 月20日	自 平成28年 3 月23日	自 平成29年 3 月21日	自 平成28年 9 月21日
営業収益				
有価証券売買等損益		21,112,199		22,962,247
営業収益合計		21,112,199		22,962,247
営業費用				
支払利息		895		1,190
受託者報酬		90,093		86,981
委託者報酬		1,952,951		1,885,210
その他費用		10,636		10,135
営業費用合計		2,054,575		1,983,516
営業利益又は営業損失（ ）		23,166,774		20,978,731
経常利益又は経常損失（ ）		23,166,774		20,978,731
当期純利益又は当期純損失（ ）		23,166,774		20,978,731
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額又は一部解約に伴う当期純損失金額の分配額（ ）		94,134		352,184
期首剰余金又は期首欠損金（ ）		72,593,252		95,641,554
剰余金増加額又は欠損金減少額		2,213,989		7,289,907
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額		2,213,989		7,289,907
剰余金減少額又は欠損金増加額		8,593		23,947
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金増加額		8,593		23,947
分配金		2,181,058		2,045,519
期末剰余金又は期末欠損金（ ）		95,641,554		69,794,566

## (3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	親投資信託受益証券 移動平均法に基づき計算期間末日の基準価額で評価しております。
2. 費用・収益の計上基準	有価証券売買等損益の計上基準 約定日基準で計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	特定期間末日の取扱い 当ファンドは、原則として毎年3月20日及び9月20日を特定期間の末日としておりますが、該当日が休業日のため、当特定期間末日を平成29年3月21日としております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	前期	当期
	平成28年9月20日現在	平成29年3月21日現在
1. 受益権の総数	361,769,429口	327,751,328口
2. 元本の欠損	95,641,554円	69,794,566円
3. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	0.7356円 (7,356円)	0.7871円 (7,871円)

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

項目	前期	当期
	自 平成28年3月23日 至 平成28年9月20日	自 平成28年9月21日 至 平成29年3月21日
1. 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用として委託者報酬の中から支弁している額	482,365円	466,398円

## 2. 分配金の計算過程

(自平成28年3月23日 至平成28年4月20日)

計算期間末における経費控除後の配当等収益(306,520円)  
(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(611,668円)及び分配準備積立金(1,545,489円)より分配対象収益は2,463,677円(1万口当たり66.91円)であり、うち368,190円(1万口当たり10円)を分配金額としております。なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。(以下、各期間において同じ。)

(自平成28年4月21日 至平成28年5月20日)

計算期間末における経費控除後の配当等収益(538,070円)  
(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(604,683円)及び分配準備積立金(1,469,055円)より分配対象収益は2,611,808円(1万口当たり71.76円)であり、うち363,971円(1万口当たり10円)を分配金額としております。

(自平成28年9月21日 至平成28年10月20日)

計算期間末における経費控除後の配当等収益(863,054円)  
(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(595,655円)及び分配準備積立金(1,704,705円)より分配対象収益は3,163,414円(1万口当たり88.26円)であり、うち358,429円(1万口当たり10円)を分配金額としております。なお、分配金の計算過程においては、親投資信託の配当等収益及び収益調整金相当額を充当する方法によっております。(以下、各期間において同じ。)

(自平成28年10月21日 至平成28年11月21日)

計算期間末における経費控除後の配当等収益(567,283円)  
(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(579,057円)及び分配準備積立金(2,148,883円)より分配対象収益は3,295,223円(1万口当たり94.58円)であり、うち348,395円(1万口当たり10円)を分配金額としております。

<p>(自平成28年5月21日 至平成28年6月20日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(263,740円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(602,770円)及び分配準備積立金(1,638,812円)より分配対象収益は2,505,322円(1万口当たり69.05円)であり、うち362,806円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p> <p>(自平成28年6月21日 至平成28年7月20日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(532,193円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(601,959円)及び分配準備積立金(1,537,939円)より分配対象収益は2,672,091円(1万口当たり73.75円)であり、うち362,302円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成28年11月22日 至平成28年12月20日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(550,508円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(579,321円)及び分配準備積立金(2,366,134円)より分配対象収益は3,495,963円(1万口当たり100.40円)であり、うち348,217円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p> <p>(自平成28年12月21日 至平成29年1月20日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(281,460円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(552,848円)及び分配準備積立金(2,458,621円)より分配対象収益は3,292,929円(1万口当たり99.10円)であり、うち332,270円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>
---	---

<p>(自平成28年7月21日 至平成28年8月22日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(257,856円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(601,530円)及び分配準備積立金(1,706,666円)より分配対象収益は2,566,052円(1万口当たり70.88円)であり、うち362,020円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成29年1月21日 至平成29年2月20日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(264,630円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(549,890円)及び分配準備積立金(2,396,070円)より分配対象収益は3,210,590円(1万口当たり97.16円)であり、うち330,457円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>
<p>(自平成28年8月23日 至平成28年9月20日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(479,751円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(601,143円)及び分配準備積立金(1,601,488円)より分配対象収益は2,682,382円(1万口当たり74.15円)であり、うち361,769円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>	<p>(自平成29年2月21日 至平成29年3月21日)</p> <p>計算期間末における経費控除後の配当等収益(257,687円)</p> <p>(本ファンドに帰属すべき親投資信託の配当等収益を含む)、費用控除後、繰越欠損金を補填した有価証券売買等損益(0円)、信託約款に規定される収益調整金(545,445円)及び分配準備積立金(2,312,263円)より分配対象収益は3,115,395円(1万口当たり95.05円)であり、うち327,751円(1万口当たり10円)を分配金額としております。</p>

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

項目	前 期	当 期
	自 平成28年3月23日 至 平成28年9月20日	自 平成28年9月21日 至 平成29年3月21日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に基づき金融商品を投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>（1）金融商品の内容</p> <p>当ファンドが保有している金融商品は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は（有価証券に関する注記）に記載しております。</p> <p>（2）金融商品に係るリスク</p> <p>当ファンドが実質的に保有している金融商品は、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクに晒されております。</p>	同左
3．金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社では、運用に係る各種リスクについて運用部門が自ら確認するとともに、運用部門とは独立したコンプライアンス・リスク管理部が、全社リスク管理基本規程に従い各種リスクを監視し、その状況をコンプライアンス・リスク管理委員会等に定期的に報告しております。</p> <p>市場リスク</p> <p>金融市場における各金融商品の時価の推移を把握すること等により、ファンドの運用方針への遵守状況を管理しております。</p>	同左

4. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>信用リスク 各金融商品の発行体の格付等信用情報をモニタリングすること等により、ファンドの投資制限等、運用方針への遵守状況を管理しております。</p> <p>流動性リスク 必要に応じて時価の推移をモニタリングすること等により、ファンドで保有する金融商品の流動性の状況を管理しております。</p> <p>また、内部監査部が運用リスク管理の適切性・有効性について内部監査を実施し、その結果を取締役に報告するとともに、必要に応じて是正勧告及びそのフォローアップを実施しております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	同左
----------------------------	--	----

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	前 期 平成28年9月20日現在	当 期 平成29年3月21日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	当該ファンドの保有する金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務）は短期間で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左

## （関連当事者との取引に関する注記）

前 期 平成28年9月20日現在	当 期 平成29年3月21日現在
該当事項はありません。	同左

## （その他の注記）

項目	前 期	当 期
	自 平成28年3月23日 至 平成28年9月20日	自 平成28年9月21日 至 平成29年3月21日
期首元本額	372,322,518円	361,769,429円
期中追加設定元本額	37,518円	116,843円
期中一部解約元本額	10,590,607円	34,134,944円



## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	前 期 平成28年9月20日現在	当 期 平成29年3月21日現在
	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）	最終計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）
親投資信託受益証券	3,524,424	1,528,485
合計	3,524,424	1,528,485

## （デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

## （４）【附属明細表】

## 第１ 有価証券明細表

## （１）株式

該当事項はありません。

## （２）株式以外の有価証券

平成29年3月21日現在

種 類	銘 柄	券面総額 （円）	評価額 （円）	備考
親投資信託受益証券	損保ジャパン - T C W ・ M B S マザーファンド	118,487,134	255,754,478	
親投資信託受益証券	合計	118,487,134	255,754,478	
合計		118,487,134	255,754,478	

（注）親投資信託受益証券における券面総額欄の数値は、口数を表示しております。

## 第２ 信用取引契約残高明細表

該当事項はありません。

## 第３ デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

## &lt;参考&gt;

当ファンドは、「損保ジャパン - TCW・MBSマザーファンド」受益証券を主要投資対象としており、貸借対照表の資産の部に計上された「親投資信託受益証券」はすべて同マザーファンドの受益証券です。なお、同マザーファンドの状況は次のとおりです。

\*なお、以下は参考情報であり、監査証明の対象ではありません。

## 損保ジャパン - TCW・MBSマザーファンドの状況

## 貸借対照表

(単位：円)

科 目	平成28年9月20日現在	平成29年3月21日現在
資産の部		
流動資産		
預金	159,382,872	204,476,647
コール・ローン	16,827,045	17,090,174
国債証券	138,963,811	87,129,984
特殊債券	808,878,195	755,854,086
未収入金	104,581,952	45,100,047
未収利息	2,119,787	1,949,547
前払費用	61,518	40,726
流動資産合計	1,230,815,180	1,111,641,211
資産合計	1,230,815,180	1,111,641,211
負債の部		
流動負債		
未払金	243,930,170	232,778,469
流動負債合計	243,930,170	232,778,469
負債合計	243,930,170	232,778,469
純資産の部		
元本等		
元本	496,852,937	407,172,174
剰余金		
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	490,032,073	471,690,568
純資産合計	986,885,010	878,862,742
負債純資産合計	1,230,815,180	1,111,641,211

## 注記表

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	<p>国債証券及び特殊債券</p> <p>個別法に基づき、以下のとおり、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、原則として日本証券業協会発表の店頭基準気配値段、金融商品取引業者、銀行等の提示する価額（ただし、売気配相場は使用しない）又は価格提供会社の提供する価額のいずれかから入手した価額で評価しております。</p> <p>ただし、適正な評価額を入手できなかった場合又は入手した評価額が時価と認定できない事由が認められた場合は、投資信託委託会社が忠実義務に基づいて合理的事由をもって時価と認められた価額もしくは受託者と協議のうえ両者が合理的事由をもって時価と認められた価額で評価しております。</p>
2. 外貨建資産・負債の本邦通貨への換算基準	<p>信託財産に属する外貨建資産・負債の円換算は、原則として、わが国における計算期間末日の対顧客電信売買相場の仲値によって計算しております。</p>
3. 費用・収益の計上基準	<p>有価証券売買等損益及び為替差損益の計上基準 約定日基準で計上しております。</p>
4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	<p>外貨建取引等の処理基準</p> <p>外貨建取引については、「投資信託財産計算規則」第60条に基づき、取引発生時の外国通貨の額をもって記録する方法を採用しております。</p> <p>但し、同第61条に基づき、外国通貨の売却時において、当該外国通貨に加えて、外貨建資産等の外貨基金勘定及び外貨建各損益勘定の前日の外貨建純資産額に対する当該売却外国通貨の割合相当額を当該外国通貨の売却時の外国為替相場等で円換算し、前日の外貨基金勘定に対する円換算した外貨基金勘定の割合相当の邦貨建資産等の外国投資勘定と、円換算した外貨基金勘定を相殺した差額を為替差損益とする計理処理を採用しております。</p>

(貸借対照表に関する注記)

項目	平成28年9月20日現在	平成29年3月21日現在
1. 受益権の総数	496,852,937口	407,172,174口
2. 1口当たり純資産額 (1万口当たり純資産額)	1.9863円 (19,863円)	2.1585円 (21,585円)

## （金融商品に関する注記）

## 金融商品の状況に関する事項

項目	自 平成28年3月23日 至 平成28年9月20日	自 平成28年9月21日 至 平成29年3月21日
1．金融商品に対する取組方針	当ファンドは、証券投資信託であり、信託約款に基づき金融商品を投資として運用することを目的としております。	同左
2．金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	<p>（１）金融商品の内容</p> <p>当ファンドが保有している金融商品は、有価証券、コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務であります。当ファンドが保有する有価証券の詳細は（有価証券に関する注記）に記載しております。</p> <p>（２）金融商品に係るリスク</p> <p>当ファンドが実質的に保有している金融商品は、市場リスク（価格変動、為替変動、金利変動等）、信用リスク、流動性リスクに晒されております。</p>	同左
3．金融商品に係るリスク管理体制	<p>委託会社では、運用に係る各種リスクについて運用部門が自ら確認するとともに、運用部門とは独立したコンプライアンス・リスク管理部が、全社リスク管理基本規程に従い各種リスクを監視し、その状況をコンプライアンス・リスク管理委員会等に定期的に報告しております。</p> <p>市場リスク</p> <p>金融市場における各金融商品の時価の推移を把握すること等により、ファンドの運用方針への遵守状況を管理しております。</p> <p>信用リスク</p> <p>各金融商品の発行体の格付等信用情報をモニタリングすること等により、ファンドの投資制限等、運用方針への遵守状況を管理しております。</p>	同左

4 . 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	<p>流動性リスク</p> <p>必要に応じて時価の推移をモニタリングすること等により、ファンドで保有する金融商品の流動性の状況を管理しております。</p> <p>また、内部監査部が運用リスク管理の適切性・有効性について内部監査を実施し、その結果を取締役会に報告するとともに、必要に応じて是正勧告及びそのフォローアップを実施しております。</p> <p>金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。</p>	同左
-----------------------------	--	----

## 金融商品の時価等に関する事項

項目	平成28年9月20日現在	平成29年3月21日現在
1. 貸借対照表計上額、時価及びその差額	当該ファンドの保有する金融商品は、原則としてすべて時価評価されているため、貸借対照表計上額と時価との差額はありません。	同左
2. 時価の算定方法	(1)有価証券 重要な会計方針に係る事項に関する注記に記載しております。 (2)デリバティブ取引 該当事項はありません。 (3)上記以外の金融商品 上記以外の金融商品（コール・ローン等の金銭債権及び金銭債務）は短期間で決済されるため、帳簿価額を時価としております。	同左

## ( 関連当事者との取引に関する注記 )

平成28年9月20日現在	平成29年3月21日現在
該当事項はありません。	同左

## （その他の注記）

項目	自 平成28年3月23日 至 平成28年9月20日	自 平成28年9月21日 至 平成29年3月21日
本報告書における開示対象ファンドの期首における当該親投資信託の元本額	513,790,430円	496,852,937円
同期中追加設定元本額	26,990,452円	6,207,777円
同期中一部解約元本額	43,927,945円	95,888,540円
元本の内訳*		
ファンド名		
損保ジャパン - T C W ・ M B S オープンAコース（為替ヘッジあり）	118,345,322円	57,648,969円
損保ジャパン - T C W ・ M B S オープンBコース（為替ヘッジなし）	129,930,922円	121,845,076円
損保ジャパン - T C W ・ M B S ファンド（毎月分配型）	132,997,146円	118,487,134円
スター・マンスリープラス	61,081,312円	55,709,307円
損保ジャパン - T C W ・ M B S オープン（D C年金）Bコース （為替ヘッジなし）	54,498,235円	53,481,688円
計	496,852,937円	407,172,174円

\*当該親投資信託受益証券を投資対象とする証券投資信託ごとの元本額

## （有価証券に関する注記）

## 売買目的有価証券

種類	平成28年9月20日現在	平成29年3月21日現在
	当計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）	当計算期間の 損益に含まれた 評価差額（円）
国債証券	17,148	320,055
特殊債券	7,032,087	10,807,771
合計	7,049,235	11,127,826

（注）「当計算期間」とは、当該親投資信託の計算期間の開始日から開示対象ファンドの期末日までの期間を指しております。

## （デリバティブ取引等に関する注記）

該当事項はありません。

## 附属明細表

## 第1 有価証券明細表

## (1) 株式

該当事項はありません。

## (2) 株式以外の有価証券

平成29年3月21日現在

種類	通貨	銘柄	券面総額	評価額	備考
国債証券	アメリカ・ドル	US TREASURY N/B 1.125% 2019/01/31	80,000.00	79,749.60	
		US TREASURY N/B 1.5% 2019/01/31	530,000.00	531,945.10	
		US TREASURY N/B 1.875% 2022/01/31	125,000.00	124,267.50	
		US TREASURY N/B 2.25% 2027/02/15	40,000.00	39,215.60	
	アメリカ・ドル	小計	775,000.00 (87,110,000)	775,177.80 (87,129,984)	
国債証券 合計			87,110,000 (87,110,000)	87,129,984 (87,129,984)	
特殊債券	アメリカ・ドル	FG A95668 2040/12/01	126,392.25	133,417.13	
		FG B15591	9,584.22	9,836.09	
		FG G08677 2045/11/01	96,212.07	100,729.22	
		FG G08681 2045/12/01	128,251.81	130,770.67	
		FG G08687 2046/01/01	153,530.04	156,503.91	
		FG G08698 2046/03/01	68,510.80	69,837.85	
		FG G08699 2046/03/01	58,328.19	61,073.69	
		FG G08702 2046/04/01	115,342.04	117,576.20	
		FG G08706 2046/05/01	63,604.31	64,836.32	
		FG G08710 2046/06/01	71,071.57	70,110.68	
		FG G08711 2046/06/01	129,407.54	131,959.45	
		FG G08715 2046/07/01	178,105.50	175,759.84	
		FG G08716 2046/08/01	160,806.37	163,977.47	
		FG G08721 2046/08/01	87,314.37	86,133.87	
		FG G08722 2046/09/01	143,818.42	146,654.50	
		FG G08732 2046/10/01	19,663.74	19,397.88	
		FG G08747 2047/02/01	79,555.21	78,479.62	
		FG G08750 2047/02/01	44,874.22	44,262.13	
		FG G12180 2017/11/01	1,171.74	1,174.02	
		FG G18592 2031/03/01	55,161.38	56,479.73	
		FG G18622 2031/12/01	73,055.62	72,924.11	
		FHMS K151 A3 2030/04/25	50,000.00	50,742.00	
		FHMS KF03 A 2021/01/25	14,004.18	14,004.03	
		FHR 2380 CF 2031/11/15	51,082.72	51,573.11	
		FHR 3001 HS 2035/02/15	1,440.39	1,432.72	
		FHR 3384 SL 2037/11/15	155,959.22	25,890.79	
		FHR 3803 FP 2038/03/15	19,446.18	19,456.68	
		FN 254548 2032/12/01	39,523.50	44,076.21	
		FN 257281 2028/07/01	37,869.91	41,393.32	
		FN AB8533 2043/03/01	105,041.91	104,245.69	
		FN AB8562 2043/02/01	78,177.77	77,585.18	
		FN AD0761 2040/02/01	74,678.20	83,414.80	
		FN AD0849 2020/02/01	123,038.53	129,425.46	
		FN AE0588 2037/08/01	50,889.49	57,222.68	
		FN AH1183 2026/01/01	210,325.07	219,533.10	
		FN AL0851 2040/10/01	23,849.61	26,690.09	
		FN AL7091 2045/06/01	44,776.02	44,317.51	
		FN AL9472 2043/10/01	143,280.87	150,545.21	
		FN AL9549 2046/09/01	90,022.86	94,295.34	
		FN AS0214 2043/08/01	113,732.93	116,770.73	
		FN AX2491 2044/10/01	58,388.45	61,213.86	
FN AX2572 2044/11/01	65,998.96	69,110.15			



		FN FN0002 2017/12/01	58,594.16	58,584.78	
		FN MA0023 2029/04/01	45,276.49	49,512.10	
		FN MA1561 2033/09/01	101,163.06	102,644.08	
		FN MA1584 2033/09/01	77,208.65	79,910.95	
		FN MA2676 2026/07/01	75,090.68	75,985.00	
		FN MA2740 2026/09/01	36,829.19	37,276.29	
		FN MA2830 2031/12/01	155,761.22	155,480.84	
		FNCI 3 4/17 2032/04/25	275,000.00	281,206.75	
		FNCL 3 4/17 2047/04/25	125,000.00	123,276.25	
		FNCL 4 4/17 2047/04/25	280,000.00	292,698.00	
		FNCL 4.5 4/17 2047/04/25	705,000.00	754,180.80	
		FNR 2003-131 FC 2034/01/25	76,041.08	77,713.22	
		FNR 2003-134 FC 2032/12/25	62,880.31	63,562.56	
		FNR 2006-51 SP 2036/03/25	109,356.00	19,474.11	
		FNR 2007-104 SA 2037/11/25	327,058.64	57,578.67	
		FNR 2009-33 FB 2037/03/25	51,764.25	52,801.08	
		G2 MA3521 2046/03/20	64,321.76	66,424.42	
		G2 MA3597 2046/04/20	63,564.22	65,642.13	
		G2 MA3736 2046/06/20	227,123.60	234,548.26	
		G2 MA4003 2046/10/20	29,505.72	29,632.29	
		G2 MA4068 2046/11/20	158,205.42	158,884.12	
		G2SF 3 4/17 2047/04/20	130,000.00	130,400.40	
		G2SF 3.5 4/17 2047/04/20	85,000.00	87,649.45	
		G2SF 4 4/17 2047/04/20	90,000.00	94,675.50	
		GNR 2009-66 XS 2039/07/16	107,732.44	15,982.10	
		NGN 2011-C1 2A 2021/03/09	53,152.80	53,103.36	
		SLMA 2004-3 A5 2023/07/25	63,816.04	63,748.39	
		SLMA 2011-2 A1 2027/11/25	29,701.73	29,793.21	
		SLMA 2012-5 A2 2019/06/25	30,784.69	30,790.53	
		SLMA 2012-6 A2 2019/09/25	6,687.80	6,687.80	
	アメリカ・ドル	小計	7,116,908.13 (799,940,474)	6,724,680.48 (755,854,086)	
特殊債券	合計		799,940,474 (799,940,474)	755,854,086 (755,854,086)	
合計			887,050,474 (887,050,474)	842,984,070 (842,984,070)	

(注) 1. 通貨種類毎の小計欄の( )内は、邦貨換算額です。

2. 合計欄における( )内の金額は、外貨建有価証券の邦貨換算額の合計額であり、内数で表示しております。

3. 外貨建有価証券の内訳

通貨	銘柄数	組入債券 時価比率	有価証券の合計金額 に対する比率
アメリカ・ドル	国債証券	4銘柄	9.91%
	特殊債券	72銘柄	86.00%
			100%

(注)「組入時価比率」は、純資産に対する比率であります。

**第2 信用取引契約残高明細表**

該当事項はありません。

**第3 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表**

該当事項はありません。

## 2【ファンドの現況】

## 【純資産額計算書】

平成29年3月31日現在

資産総額	258,007,868円
負債総額	103,541円
純資産総額( - )	257,904,327円
発行済数量	327,756,118口
1単位当りの純資産額( / )	0.7869円

(参考)マザーファンドの現況

損保ジャパン・TCW・MBSマザーファンド

平成29年3月31日現在

資産総額	1,161,574,183円
負債総額	285,798,384円
純資産総額( - )	875,775,799円
発行済数量	405,650,598口
1単位当りの純資産額( / )	2.1589円

## 第三部【委託会社等の情報】

### 第1【委託会社等の概況】

#### 1【委託会社等の概況】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

##### (1) 資本金の額（平成29年3月末現在）

資本金の額	1,550百万円
会社が発行する株式の総数	50,000株
発行済株式総数	24,085株
最近5年間における主な資本金の額の増減	該当事項はありません。

##### (2) 会社の機構（平成29年4月1日現在）

###### 会社の意思決定機構

定款に基づき15名以内の取締役が株主総会において選任されます。取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上にあたる株式を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行います。また、その選任決議は、累積投票によらないものとしします。

取締役の任期は、選任後1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。増員により、または補欠として選任された取締役の任期は、他の在任取締役の任期終了と同時に終了します。

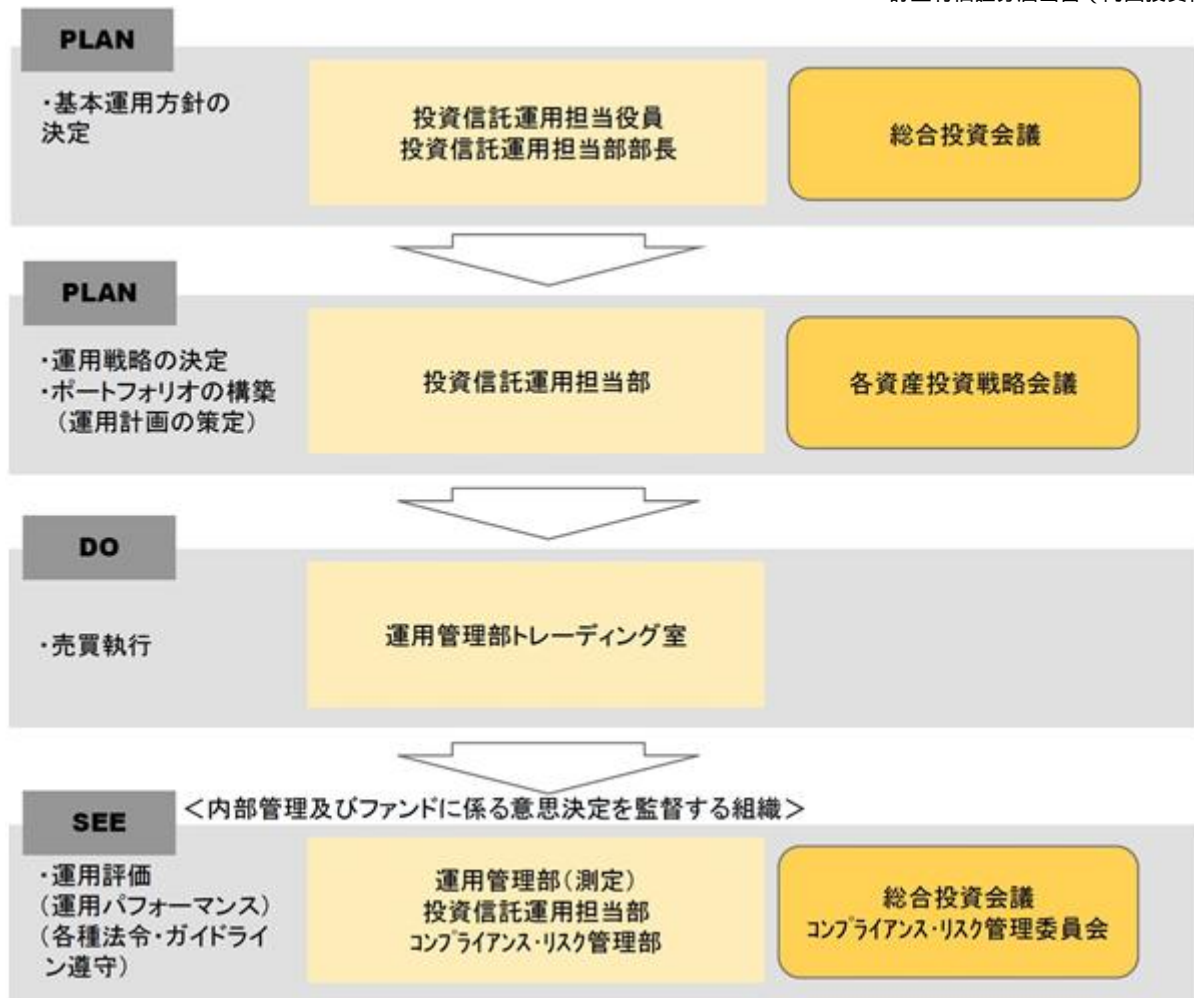
取締役会の決議によって、代表取締役を選定します。また、取締役会長、取締役社長各1名を選定することができます。

取締役会は、法令に別段の定めがある場合を除き、取締役社長が招集し、議長となります。取締役社長に事故あるときは、あらかじめ取締役会で定めた順序により、他の取締役がその任にあたります。取締役会の招集通知は会日の3日前までに発します。ただし、緊急の必要のある場合には、この期間を短縮することができます。

取締役会は、法令または定款に別段の定めがある場合のほか、業務執行に関する重要事項を決定します。その決議は、取締役の過半数が出席し、出席した取締役の過半数をもって行います。

###### 投資運用の意思決定機構

- ・総合投資会議は、ファンドの基本運用方針の分析と決定を行います。
- ・各資産投資戦略会議は、総合投資会議の基本運用方針に基づき、ファンドの運用戦略を決定し、各運用担当部が運用計画を策定します。  
銘柄の選定にあたっては「いかなる資産も本来の投資価値を有しており、市場価格は中長期的にはこの投資価値に収束する。したがって、市場価格と投資価値の乖離が超過収益の源泉となる。」という当社の投資哲学に基づき、各資産、市場、銘柄の割安・割高の度合いを算出するために、各々の「本来あるべき投資価値」を分析することに注力しています。
- ・各運用担当部で策定された運用計画に基づき、運用管理部トレーディング室が最良執行の観点から売買を執行します。
- ・運用状況の分析・評価等は運用担当部で行い、総合投資会議に報告されます。また、売買チェック、リスク管理、各種法令、ガイドライン遵守の状況は、コンプライアンス・リスク管理部で確認を行い、コンプライアンス・リスク管理委員会に報告されます。



## 2【事業の内容及び営業の概況】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社である委託会社は、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）ならびに証券投資信託の募集又は私募（第二種金融商品取引業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める投資一任契約に基づく運用（投資運用業）および投資助言業務を行っています。

委託会社の運用する投資信託（親投資信託を除きます。）は平成29年3月末現在、計144本（追加型株式投資信託121本、単位型株式投資信託14本、単位型公社債投資信託9本）であり、その純資産総額の合計は676,204百万円です。

### 3【委託会社等の経理状況】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

1．委託会社である損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社（以下「委託会社」という。）の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）、ならびに、同規則第2条の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

また、委託会社の中間財務諸表は「中間財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和52年大蔵省令第38号）、ならびに、同規則第38条第1項及び第57条第1項の規定に基づき、「金融商品取引業等に関する内閣府令」（平成19年内閣府令第52号）により作成しております。

2．委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度（平成27年4月1日から平成28年3月31日まで）の財務諸表について、新日本有限責任監査法人による監査を受けております。

また、委託会社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第32期中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の中間財務諸表について、新日本有限責任監査法人による中間監査を受けております。

## ( 1 ) 【貸借対照表】

区分	注記 番号	前事業年度 (平成27年3月31日)		当事業年度 (平成28年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
(資産の部)					
流動資産					
1		現金・預金	3,896,094	4,375,837	
2		前払費用	94,024	81,218	
3		未収委託者報酬	814,705	754,788	
4		未収運用受託報酬	319,881	521,498	
5		未収収益	107	149	
6		繰延税金資産	85,853	137,932	
7		その他	84	421	
		流動資産合計	5,210,750	5,871,846	
固定資産					
1 有形固定資産					
	* 1	(1) 建物	45,249	37,899	
	* 1	(2) 器具備品	12,797	13,712	
		有形固定資産合計	58,046	51,612	
2 無形固定資産					
		(1) 電話加入権	4,535	4,535	
		無形固定資産合計	4,535	4,535	
3 投資その他の資産					
		(1) 投資有価証券	135,587	128,043	
		(2) 関係会社株式	122	-	
		(3) 長期差入保証金	161,636	161,598	
		(4) 繰延税金資産	132,485	133,008	
		(5) その他	29	29	
		投資その他の資産合計	429,859	422,678	
		固定資産合計	492,441	478,826	
		資産合計	5,703,191	6,350,672	

区分	注記 番号	前事業年度 (平成27年3月31日)		当事業年度 (平成28年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
(負債の部)					
流動負債					
1 預り金			126,101		3,485
2 未払金					
(1) 未払配当金	* 2		-	500,000	
(2) 未払手数料		391,115		333,031	
(3) その他未払金		107,030	498,145	107,732	940,764
3 未払費用			387,091		429,958
4 未払消費税等			211,457		71,725
5 未払法人税等			583,342		346,936
6 前受収益			47,207		26,746
7 賞与引当金			54,235		58,159
8 役員賞与引当金			11,400		9,600
流動負債合計			1,918,981		1,887,376
固定負債					
1 退職給付引当金			64,308		75,674
2 資産除去債務			7,760		7,898
固定負債合計			72,068		83,572
負債合計			1,991,050		1,970,949
(純資産の部)					
株主資本					
1 資本金			1,550,000		1,550,000
2 資本剰余金					
(1) 資本準備金			413,280		413,280
資本剰余金合計			413,280		413,280
3 利益剰余金					
(1) その他利益剰余金					
繰越利益剰余金			1,750,324		2,424,248
利益剰余金合計			1,750,324		2,424,248
株主資本合計			3,713,604		4,387,528
評価・換算差額等					
1 その他有価証券評価差額金			1,462		7,804
評価・換算差額等合計			1,462		7,804
純資産合計			3,712,141		4,379,723
負債・純資産合計			5,703,191		6,350,672



## ( 2 ) 【損益計算書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
営業収益					
1 委託者報酬		6,931,318		7,038,975	
2 運用受託報酬		2,410,937	9,342,256	2,535,301	9,574,276
営業費用					
1 支払手数料		3,520,626		3,508,448	
2 広告宣伝費		23,637		16,724	
3 公告費		4,180		610	
4 調査費		1,890,482		2,046,339	
(1) 調査費		594,023		622,284	
(2) 委託調査費		1,292,599		1,420,590	
(3) 図書費		3,859		3,465	
5 営業雑経費		191,429		182,596	
(1) 通信費		21,613		17,360	
(2) 印刷費		158,297		151,371	
(3) 諸会費		11,518	5,630,355	13,864	5,754,719
一般管理費					
1 給料		1,260,113		1,299,501	
(1) 役員報酬		109,183		83,689	
(2) 給料・手当		1,045,995		1,107,914	
(3) 賞与		104,933		107,897	
2 福利厚生費		102,817		109,923	
3 交際費		10,360		11,516	
4 寄付金		200		300	
5 旅費交通費		37,768		38,774	
6 法人事業税		18,444		29,306	
7 租税公課		8,301		7,391	
8 不動産賃借料		227,534		214,575	
9 退職給付費用		34,819		47,701	
10 賞与引当金繰入		54,235		58,159	

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)		当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)	
		金額(千円)		金額(千円)	
11 役員賞与引当金繰入		11,400		9,600	
12 固定資産減価償却費		14,237		13,042	
13 諸経費		183,804	1,964,036	205,813	2,045,605
営業利益			1,747,864		1,773,952
営業外収益					
1 受取配当金		2,211		90	
2 受取利息		464		657	
3 有価証券売却益		1,139		19	
4 有価証券償還益		18,285		-	
5 為替差益		2,259		-	
6 雑益		3,746	28,107	6,407	7,173
営業外費用					
1 為替差損		-		100	
2 雑損		221	221	0	100
経常利益			1,775,751		1,781,026
特別利益					
1 子会社清算益	* 1	124,873	124,873	-	-
特別損失					
1 固定資産除却損	* 2	31	31	663	663
税引前当期純利益			1,900,593		1,780,362
法人税、住民税及び事業税			702,469		659,040
法人税等調整額			43,579		52,602
当期純利益			1,241,702		1,173,924

## （ 3 ） 【 株主資本等変動計算書 】

前事業年度（自 平成26年 4 月 1 日 至 平成27年 3 月31日）

（単位：千円）

	株主資本					
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		株主資本合計
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計	
当期首残高	1,550,000	413,280	413,280	1,515,658	1,515,658	3,478,938
当期変動額						
剰余金の配当				1,007,036	1,007,036	1,007,036
当期純利益				1,241,702	1,241,702	1,241,702
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	234,666	234,666	234,666
当期末残高	1,550,000	413,280	413,280	1,750,324	1,750,324	3,713,604

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	11,764	11,764	3,490,702
当期変動額			
剰余金の配当			1,007,036
当期純利益			1,241,702
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	13,227	13,227	13,227
当期変動額合計	13,227	13,227	221,438
当期末残高	1,462	1,462	3,712,141

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	1,550,000	413,280	413,280	1,750,324	1,750,324	3,713,604
当期変動額						
剰余金の配当				500,000	500,000	500,000
当期純利益				1,173,924	1,173,924	1,173,924
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）						
当期変動額合計	-	-	-	673,924	673,924	673,924
当期末残高	1,550,000	413,280	413,280	2,424,248	2,424,248	4,387,528

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,462	1,462	3,712,141
当期変動額			
剰余金の配当			500,000
当期純利益			1,173,924
株主資本以外の 項目の当期変動 額（純額）	6,342	6,342	6,342
当期変動額合計	6,342	6,342	667,582
当期末残高	7,804	7,804	4,379,723

## 重要な会計方針

### 1．有価証券の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

#### (2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法より算定）を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

### 2．固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	15年
器具備品	3～20年

#### (2) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

### 4．引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額の当事業年度負担額を計上しております。

#### (2) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、当事業年度における支給見込額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における要支給額を計上しております。

退職給付債務の計算に当たっては、「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号）に定める簡便法によっております。

### 5．消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

### （未適用の会計基準等）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）

#### (1) 概要

繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いについて、監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」の枠組み、すなわち企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積る枠組みを基本的に踏襲した上で、以下の取扱いについて必要な見直しが行われております。

（分類1）から（分類5）に係る分類の要件をいずれも満たさない企業の取扱い

（分類2）及び（分類3）に係る分類の要件

（分類2）に該当する企業におけるスケジューリング不能な将来減算一時差異に関する取扱い

(分類3)に該当する企業における将来の一時差異等加減算前課税所得の合理的な見積可能期間に関する取扱い

(分類4)に係る分類の要件を満たす企業が(分類2)又は(分類3)に該当する場合の取扱い

(2) 適用予定日

平成29年3月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当事業年度の財務諸表の作成時において評価中であります。

## 注記事項

## （貸借対照表関係）

\* 1 . 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
建物	64,817千円	72,167千円
器具備品	46,725	44,838

\* 2 . 関係会社項目

関係会社に対する負債は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
未払金		
未払配当金	- 千円	500,000千円

## （損益計算書関係）

\* 1 . 特別利益の子会社清算益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
米国の100%子会社であつた TACT ASSET MANAGEMENT INC.の清算結了によるものであります。		-

\* 2 . 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	当事業年度 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
器具備品	31千円	663千円

## （株主資本等変動計算書関係）

前事業年度（自 平成26年 4月 1日 至 平成27年 3月31日）

## 1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
普通株式	24,085株	- 株	- 株	24,085株

## 2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

## 4．剰余金の配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
平成26年 6月25日 定時株主総会	普通株式	407,036千円	16,900円	平成26年 3月31日	平成26年 6月26日
平成27年 3月27日 臨時株主総会	普通株式	600,000千円	24,911円	平成26年 3月31日	平成27年 3月31日

## (2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成27年 4月 1日 至 平成28年 3月31日）

## 1．発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
普通株式	24,085株	- 株	- 株	24,085株

## 2．自己株式に関する事項

該当事項はありません。

## 3．新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。



## 4．剰余金の配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

（決議）	株式の種類	配当金の総額	1株当たり配当額	基準日	効力発生日
平成28年3月29日 取締役会	普通株式	500,000千円	20,759円	平成27年3月31日	平成28年3月31日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌期となるもの  
該当事項はありません。

## (金融商品関係)

## 1．金融商品の状況に関する事項

## (1) 金融商品に対する取組方針

当社では、主として短期的な預金及び一部の有価証券によって運用しており、経営として許容できる範囲内にリスクを制御するよう、適切に資産運用を行っております。

## (2) 金融商品の内容及びそのリスク

投資有価証券は、主に投資信託を保有しており、今後の基準価額の下落によっては、売却損・評価損計上による利益減少や、評価差額金の減少により純資産が減少するなど、価格変動リスクに晒されております。

## (3) 金融商品に係るリスク管理体制

当社では、短期的な預金について、格付の高い金融機関とのみ取引を行っております。

価格変動リスクについては、四半期ごとに時価の状況等を把握し、当該状況については資産運用管理規程に従い、経理担当部が取締役会等へ報告し、適切に管理を行っております。

## (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2．金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含めておりません（注2．参照）。

前事業年度（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	3,896,094	3,896,094	-
(2) 投資有価証券			
其他有価証券	119,837	119,837	-
資産計	4,015,931	4,015,931	-
(1) 未払法人税等	583,342	583,342	-
負債計	583,342	583,342	-

当事業年度（平成28年3月31日）

（単位：千円）

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金・預金	4,375,837	4,375,837	-
(2) 投資有価証券 其他有価証券	112,293	112,293	-
資産計	4,488,131	4,488,131	-
(1) 未払法人税等	346,936	346,936	-
負債計	346,936	346,936	-

注1．金融商品の時価の算定方法並びに有価証券取引に関する事項

資 産

## (1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 投資有価証券

時価については、公表されている基準価額または取引金融機関等から提示された基準価額によっております。

負 債

## (1) 未払法人税等

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

注2．時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	前事業年度 （平成27年3月31日）	当事業年度 （平成28年3月31日）
非上場株式	15,750	15,750
関係会社株式	122	-

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(2) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

また、関係会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

## 注3．金銭債権及び満期のある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1) 預金	3,896,001	-	-	-
(2) 投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの				
株式	-	-	-	-
債券	-	-	-	-
その他	-	1,316	118,520	-
合計	3,896,001	1,316	118,520	-

当事業年度（平成28年3月31日）

（単位：千円）

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
(1) 預金	4,375,515	-	-	-
(2) 投資有価証券				
その他有価証券のうち 満期があるもの				
株式	-	-	-	-
債券	-	-	-	-
その他	-	96	112,197	-
合計	4,375,515	96	112,197	-

## 注4．社債、新株予約権付社債及び長期借入金の決算日後の返済予定額

該当事項はありません。

（有価証券関係）

## 1．売買目的有価証券

該当事項はありません。

## 2．満期保有目的の債券

該当事項はありません。

## 3．子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式（前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式 122千円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

4．その他有価証券で時価のあるもの  
前事業年度（平成27年3月31日）

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	1,217	1,200	17
	小 計	1,217	1,200	17
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	118,619	120,100	1,480
	小 計	118,619	120,100	1,480
合計		119,837	121,300	1,462

当事業年度（平成28年3月31日）

（単位：千円）

	種類	貸借対照表計上額	取得原価	差 額
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小 計	-	-	-
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	112,293	120,098	7,804
	小 計	112,293	120,098	7,804
合計		112,293	120,098	7,804

5．売却したその他有価証券

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	42,174	1,171	31
合計	42,174	1,171	31

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

（単位：千円）

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
(1) 株式	-	-	-
(2) 債券	-	-	-
(3) その他	1,419	22	2
合計	1,419	22	2

（デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

（退職給付関係）

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要（出向受入者に対する出向元への退職金負担額を除く。）

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	59,903	千円
退職給付費用	13,437	
退職給付の支払額	9,032	
退職給付引当金の期末残高	64,308	

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

非積立型制度の退職給付債務	64,308	千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	64,308	

退職給付引当金	64,308
---------	--------

貸借対照表に計上された負債と資産の純額	64,308
---------------------	--------

(3) 退職給付に係る負債

簡便法で計算した退職給付費用	13,437	千円
----------------	--------	----

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、10,316千円でありました。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1. 採用している退職給付制度の概要（出向受入者に対する出向元への退職金負担額を除く。）

当社は、従業員の退職給付に充てるため、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。

退職一時金制度（非積立型制度であります。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社が有する退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	64,308	千円
退職給付費用	17,374	
退職給付の支払額	6,008	
<u>退職給付引当金の期末残高</u>	<u>75,674</u>	

(2) 退職給付債務の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

非積立型制度の退職給付債務	75,674	千円
<u>貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>75,674</u>	

退職給付引当金	75,674
<u>貸借対照表に計上された負債と資産の純額</u>	<u>75,674</u>

(3) 退職給付に係る負債

簡便法で計算した退職給付費用	17,374	千円
----------------	--------	----

3. 確定拠出制度

当社の確定拠出制度への要拠出額は、10,921千円でありました。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

## （税効果会計関係）

## 1．繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当事業年度 (平成28年3月31日)
<b>繰延税金資産</b>		
ソフトウェア損金算入限度超過額	112,543千円	110,523千円
未払費用否認	25,132	88,021
退職給付引当金	20,839	23,200
未払事業税	41,100	22,641
賞与引当金	17,930	17,947
繰延資産損金算入限度超過額	-	7,634
その他	4,758	6,579
繰延税金資産小計	222,305	276,547
評価性引当額	3,071	4,900
繰延税金資産合計	219,234	271,647
<b>繰延税金負債</b>		
固定資産除去価額	896	707
繰延税金負債合計	896	707
繰延税金資産の純額	218,338	270,940

## 2．法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

## 3．法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税等の一部を改正する等の法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率等の引き下げが行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来33.1%から平成28年4月1日に開始する事業年度及び平成29年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.9%に、平成30年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、30.6%になります。

その税率変更により、繰延税金資産の金額（繰延税金負債の金額を控除した金額）は19,903千円減少し、法人税等調整額が同額増加しております。

## （資産除去債務関係）

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

## 1．当該資産除去債務の概要

本社事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

## 2．当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は1.7%～1.8%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

## 3．当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度		当事業年度	
	（自 至	平成26年4月1日 平成27年3月31日）	（自 至	平成27年4月1日 平成28年3月31日）
期首残高		7,625千円		7,760千円
時の経過による調整額		135		137
期末残高		7,760		7,898

## （セグメント情報等）

## セグメント情報

当社は、投資運用事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えているため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

## 3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。



当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

2．地域ごとの情報

(1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が損益計算書の営業収益の90%を超えているため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で損益計算書の営業収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

## （関連当事者情報）

## 1．関連当事者との取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等に限る。）等  
記載すべき重要な取引はありません。

(2) 財務諸表提出会社の子会社及び関連会社等  
記載すべき重要な取引はありません。

(3) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前事業年度（自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社	東京都新宿区	17,250,000	生命保険業	-	投資顧問契約に基づく資産運用の一任（注1）	運用受託報酬の受取り	188,089	未収運用受託報酬	102,679
同一の親会社を持つ会社	損保ジャパン日本興亜DC証券株式会社	東京都新宿区	3,000,000	確定拠出年金業	-	投資信託に係る事務代行の委託等（注2）	投資信託代行手数料の支払い	371,167	未払手数料	92,290

注1．上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 2．取引条件ないし取引条件の決定方針等

（注1） 運用受託報酬の受取りについては、一般的取引条件によっております。

（注2） 代行手数料の支払いについては、一般的取引条件によっております。

当事業年度（自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	損保ジャパン日本興亜ひまわり生命保険株式会社	東京都新宿区	17,250,000	生命保険業	-	投資顧問契約に基づく資産運用の一任（注1）	運用受託報酬の受取り	189,203	未収運用受託報酬	101,258
同一の親会社を持つ会社	損保ジャパン日本興亜DC証券株式会社	東京都新宿区	3,000,000	確定拠出年金業	-	投資信託に係る事務代行の委託等（注2）	投資信託代行手数料の支払い	407,134	未払手数料	86,317

注1．上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

## 2．取引条件ないし取引条件の決定方針等

（注1） 運用受託報酬の受取りについては、一般的取引条件によっております。

（注2） 代行手数料の支払いについては、一般的取引条件によっております。

(4) 財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等  
役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等との取引はありません。

## 2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

## (1) 親会社情報

損保ジャパン日本興亜ホールディングス株式会社（東京証券取引所に上場）

## (2) 重要な関連会社の要約財務情報

関連会社はありません。

## (1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
1株当たり純資産額	154,126.69円	181,844.45円
1株当たり当期純利益金額	51,555.01円	48,740.88円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)	当事業年度 (自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日)
当期純利益(千円)	1,241,702	1,173,924
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	1,241,702	1,173,924
期中平均株式数(株)	24,085	24,085

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 中間財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

		第32期中間会計期間 (平成28年9月30日)
区分	注記 番号	金額(千円)
(資産の部)		
流動資産		
1 現金・預金		3,658,005
2 前払費用		86,048
3 未収委託者報酬		816,739
4 未収運用受託報酬		721,313
5 未収収益		51
6 繰延税金資産		106,686
7 その他		294
流動資産合計		5,389,138
固定資産		
1 有形固定資産	1	46,485
2 無形固定資産		4,535
3 投資その他の資産		
(1) 投資有価証券		128,261
(2) 長期差入保証金		161,598
(3) 繰延税金資産		149,783
(4) その他		29
投資その他の資産合計		439,671
固定資産合計		490,692
資産合計		5,879,830

		第32期中間会計期間 (平成28年9月30日)
区分	注記 番号	金額(千円)
(負債の部)		
流動負債		
1 預り金		3,833
2 未払金		
(1) 未払手数料		335,100
(2) その他未払金		129,088
未払金合計		464,188
3 未払費用		461,852
4 未払法人税等		121,542
5 前受収益		16,515
6 賞与引当金		62,781
7 役員賞与引当金		2,250
8 その他	2	21,212
流動負債合計		1,154,177
固定負債		
1 退職給付引当金		84,149
2 資産除去債務		7,969
固定負債合計		92,118
負債合計		1,246,295

		第32期中間会計期間 (平成28年9月30日)
区分	注記 番号	金額(千円)
(純資産の部)		
株主資本		
1 資本金		1,550,000
2 資本剰余金		
(1) 資本準備金		413,280
資本剰余金合計		413,280
3 利益剰余金		
(1) その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		2,678,051
利益剰余金合計		2,678,051
株主資本合計		
		4,641,331
評価・換算差額等		
1 その他有価証券評価差額金		7,796
評価・換算差額等合計		7,796
純資産合計		4,633,535
負債・純資産合計		5,879,830

## (2) 中間損益計算書

		第32期中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
営業収益			
1 委託者報酬		2,780,443	
2 運用受託報酬		1,244,524	4,024,967
営業費用			
1 支払手数料		1,365,286	
2 広告宣伝費		3,355	
3 公告費		2,970	
4 調査費		1,112,304	
(1) 調査費		381,749	
(2) 委託調査費		728,394	
(3) 図書費		2,160	
5 営業雑経費		98,321	
(1) 通信費		8,419	
(2) 印刷費		78,890	
(3) 諸会費		11,010	2,582,237
一般管理費			
1 給料		644,821	
(1) 役員報酬		39,778	
(2) 給料・手当		561,070	
(3) 賞与		43,973	
2 福利厚生費		65,595	
3 交際費		3,410	
4 旅費交通費		13,346	
5 法人事業税		17,277	
6 租税公課		3,604	
7 不動産賃借料		106,223	
8 退職給付費用		25,071	
9 賞与引当金繰入		62,781	
10 役員賞与引当金繰入		2,250	
11 固定資産減価償却費	1	5,126	
12 諸経費		114,298	1,063,807
営業利益			378,922

		第32期中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	
営業外収益			
1 受取配当金		90	
2 受取利息		150	
3 雑益		474	715
営業外費用			
1 為替差損		4,057	
2 雑損		7	4,065
経常利益			375,572
税引前中間純利益			375,572
法人税、住民税及び事業税			107,298
法人税等調整額			14,471
中間純利益			253,802



## (3) 中間株主資本等変動計算書

第32期中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

（単位：千円）

	株主資本					株主資本 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		
		資本準備金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計	
当期首残高	1,550,000	413,280	413,280	2,424,248	2,424,248	4,387,528
当中間期変動額						
中間純利益				253,802	253,802	253,802
株主資本以外の項目の当 中間期変動額（純額）						
当中間期変動額合計	-	-	-	253,802	253,802	253,802
当中間期末残高	1,550,000	413,280	413,280	2,678,051	2,678,051	4,641,331

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差 額等合計	
当期首残高	7,804	7,804	4,379,723
当中間期変動額			
中間純利益			253,802
株主資本以外の項目の当 中間期変動額（純額）	8	8	8
当中間期変動額合計	8	8	253,811
当中間期末残高	7,796	7,796	4,633,535

## 重要な会計方針

### 1．資産の評価基準及び評価方法

#### (1) 子会社株式

移動平均法による原価法によっております。

#### (2) その他有価証券

##### 時価のあるもの

中間会計期間末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）によっております。

##### 時価のないもの

移動平均法による原価法によっております。

### 2．固定資産の減価償却の方法

#### (1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しています。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	15年
器具備品	3～20年

#### (2) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

### 3．外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、中間会計期間末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

### 4．引当金の計上基準

#### (1) 賞与引当金

従業員賞与の支給に充てるため、賞与支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

#### (2) 役員賞与引当金

役員賞与の支給に充てるため、当事業年度における支給見込額の当中間会計期間負担額を計上しております。

#### (3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当中間会計期間末における要支給額を計上しております。

退職給付債務の計算に当たっては、「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号）に定める簡便法によっております。

### 5．消費税等の会計処理方法

税抜方式を採用しております。

## （会計方針の変更）

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第32号 平成28年6月17日）を当中間会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

これによる中間財務諸表に与える影響はありません。

## （追加情報）

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）を当中間会計期間から適用しております。

## 注記事項

## （中間貸借対照表関係）

		第32期中間会計期間 (平成28年9月30日)
1	有形固定資産の減価償却累計額	121,305千円
2	消費税等の取扱い	仮払消費税等及び仮受消費税等は相殺のうえ、 流動負債の「その他」に含めて表示しております。

## （中間損益計算書関係）

		第32期中間会計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)
1	減価償却実施額 有形固定資産	5,126千円

## （中間株主資本等変動計算書関係）

第32期中間会計期間（自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）

## 1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数（株）	当中間会計期間 増加株式数（株）	当中間会計期間 減少株式数（株）	当中間会計期間末 株式数（株）
発行済株式				
普通株式	24,085	-	-	24,085
合計	24,085	-	-	24,085
自己株式				
普通株式	-	-	-	-
合計	-	-	-	-

## 2. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

該当事項はありません。

## (2) 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## (金融商品関係)

第32期中間会計期間（平成28年9月30日）

## 金融商品の時価等に関する事項

平成28年9月30日における中間貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含めておりません（注2.参照）。

（単位：千円）

	中間貸借対照表計上額	時 価	差 額
(1) 現金・預金	3,658,005	3,658,005	-
(2) 投資有価証券 其他有価証券	112,511	112,511	-
資産計	3,770,517	3,770,517	-

## 注1. 金融商品の時価の算定方法

## 資 産

## (1) 現金・預金

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

## (2) 投資有価証券

時価については、公表されている基準価額または取引金融機関等から提示された基準価額によっております。

## 注2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	中間貸借対照表計上額
非上場株式	15,750

非上場株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(2) 投資有価証券 其他有価証券」には含めておりません。

## （有価証券関係）

第32期中間会計期間（平成28年9月30日）

## 1．満期保有目的の債券

該当事項はありません。

## 2．子会社株式及び関連会社株式

子会社株式及び関連会社株式は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

## 3．その他有価証券

（単位：千円）

	種 類	中間貸借対照表 計上額	取得原価	差 額
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小 計	-	-	-
中間貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他	112,511	120,308	7,796
	小 計	112,511	120,308	7,796
合計		112,511	120,308	7,796

## （デリバティブ取引関係）

該当事項はありません。

## （ストック・オプション等関係）

該当事項はありません。

## （資産除去債務関係）

第32期中間会計期間（平成28年9月30日）

資産除去債務のうち中間貸借対照表に計上しているもの

当中間会計期間における当該資産除去債務の総額の増減

期首残高	7,898千円
時の経過による調整額	70
中間期末残高	7,969

## （セグメント情報等）

セグメント情報

第32期中間会計期間（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）

当社は、投資運用事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

## 関連情報

第32期中間会計期間（自平成28年4月1日至平成28年9月30日）

## 1．製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えるため、記載を省略しております。

## 2．地域ごとの情報

## (1) 営業収益

本邦の外部顧客への営業収益が中間損益計算書の営業収益の90%を超えているため、記載を省略しております。

## (2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が中間貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えているため、記載を省略しております。

## 3．主要な顧客ごとの情報

特定の顧客に対する営業収益で中間損益計算書の営業収益の10%以上を占めるものがないため、記載を省略しております。

## （ 1株当たり情報）

	第32期中間会計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）
1株当たり純資産額	192,382.60円
1株当たり中間純利益金額	10,537.80円
	なお、潜在株式調整後1株当たり中間純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（注）1株当たり中間純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	第32期中間会計期間 （自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日）
中間純利益（千円）	253,802
普通株主に帰属しない金額（千円）	-
普通株式に係る中間純利益（千円）	253,802
普通株式の期中平均株式数（株）	24,085

## （重要な後発事象）

該当事項はありません。

## 第2【その他の関係法人の概況】

## 1【名称、資本金の額及び事業の内容】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

## &lt;更新・訂正後&gt;

## (1) 受託会社

名称

みずほ信託銀行株式会社（再信託受託会社：資産管理サービス信託銀行株式会社）

資本金の額

247,369百万円（平成28年9月末現在）

事業の内容

銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

## &lt;再信託受託会社の概要&gt;

名称：資産管理サービス信託銀行株式会社

資本金の額：50,000百万円（平成28年9月末現在）

事業の内容：銀行法に基づき銀行業を営むとともに、金融機関の信託業務の兼営に関する法律（兼営法）に基づき信託業務を営んでいます。

再信託の目的：原信託契約に係る信託事務の一部（信託財産の管理）を原信託受託会社から再信託受託会社（資産管理サービス信託銀行株式会社）へ委託するため、原信託財産の全てを再信託受託会社へ移管することを目的とします。

## (2) 販売会社

(単位：百万円、平成28年9月末現在)

名称	資本金の額	事業の内容
S M B C 日興証券株式会社	10,000	「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社 S B I 証券	47,937	
カブドットコム証券株式会社	7,196	
ふくおか証券株式会社	2,198	
三菱 U F J モルガン・スタンレー証券株式会社	40,500	
楽天証券株式会社	7,495	

## (3) 投資顧問会社

名称

TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANY

資本金の額

25千ドル（平成28年12月末現在）

(2,912千円、1ドル=116.49円換算)

事業の内容

米国において有価証券等に係る投資顧問業務及び投資信託委託業務を行っています。



### 第3【その他】

以下の記載内容に更新・訂正いたします。

<更新・訂正後>

1. 目論見書の表紙等に、ロゴマーク、キャッチコピー、図案、イラスト、写真、当ファンドの概略的性格を表示する文言、第三者機関から取得したユニバーサルデザインに関する認証マーク等を記載することがあります。
2. 金融商品取引法第13条第2項第1号に定める事項に関する内容を記載した目論見書の別称として「投資信託説明書（交付目論見書）」という名称を使用することがあります。また、金融商品取引法第13条第2項第2号に定める事項に関する内容を記載した目論見書の別称として「投資信託説明書（請求目論見書）」という名称を使用することがあります。
3. 投資信託説明書（請求目論見書）の表紙あるいは裏表紙に、金融商品取引法に基づき、投資家の請求により交付される目論見書である旨を記載することがあります。
4. 投資信託説明書（請求目論見書）の表紙に課税上の取扱いに関する記載をすることがあります。
5. 目論見書に記載する運用状況に関する情報等は、適宜更新することがあります。
6. 目論見書の表紙等に「金融商品取引業者登録番号」、「使用開始日」等を記載することがあります。
7. 投資信託説明書（請求目論見書）の巻末に信託約款を掲載することがあります。
8. 目論見書は電子媒体等として使用される他、インターネット等に掲載されることがあります。
9. 投資評価機関、投資評価会社等からファンドに対するレーティングを取得し、当該レーティングを使用することがあります。
10. 目論見書の表紙等に以下の内容を記載することがあります。
  - ・投資信託の財産は受託会社において信託法に基づき分別管理されています。

## 独立監査人の監査報告書

平成29年5月19日

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社

取締役会 御 中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小澤裕治 印  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 伊藤志保 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられている損保ジャパン-T C W・M B Sファンド（毎月分配型）の平成28年9月21日から平成29年3月21日までの特定期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、損保ジャパン-T C W・M B Sファンド（毎月分配型）の平成29年3月21日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する特定期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1．上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．X B R Lデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

# 独立監査人の監査報告書

平成28年6月3日

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 小澤裕治 印  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 羽柴則央 印  
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第31期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

## 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBR Lデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

# 独立監査人の中間監査報告書

平成28年11月22日

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 小澤 裕治 印指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 伊藤 志保 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられている損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第32期事業年度の中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について中間監査を行った。

## 中間財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して中間財務諸表を作成し有用な情報を表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し有用な情報を表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した中間監査に基づいて、独立の立場から中間財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる中間監査の基準に準拠して中間監査を行った。中間監査の基準は、当監査法人に中間財務諸表には全体として中間財務諸表の有用な情報の表示に関して投資者の判断を損なうような重要な虚偽表示がないかどうかの合理的な保証を得るために、中間監査に係る監査計画を策定し、これに基づき中間監査を実施することを求めている。

中間監査においては、中間財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するために年度監査と比べて監査手続の一部を省略した中間監査手続が実施される。中間監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による中間財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて、分析的手続等を中心とした監査手続に必要に応じて追加の監査手続が選択及び適用される。中間監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な中間監査手続を立案するために、中間財務諸表の作成と有用な情報の表示に関連する内部統制を検討する。また、中間監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め中間財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、中間監査の意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 中間監査意見

当監査法人は、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる中間財務諸表の作成基準に準拠して、損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント株式会社の平成28年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する中間会計期間（平成28年4月1日から平成28年9月30日まで）の経営成績に関する有用な情報を表示しているものと認める。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

（注）1．上記は、中間監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2．XBRLデータは監査の対象には含まれていません。